

## 第27期考古学セミナー（2025年度）

―日向洞窟遺跡西地区と縄文時代草創期の置賜―

### 第3回講座

講義④

日向洞窟遺跡西地区の年代的位置づけと  
石器群の構造

高畠町教育委員会

鈴木 大輔 氏

令和7年10月5日（日）

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室





4



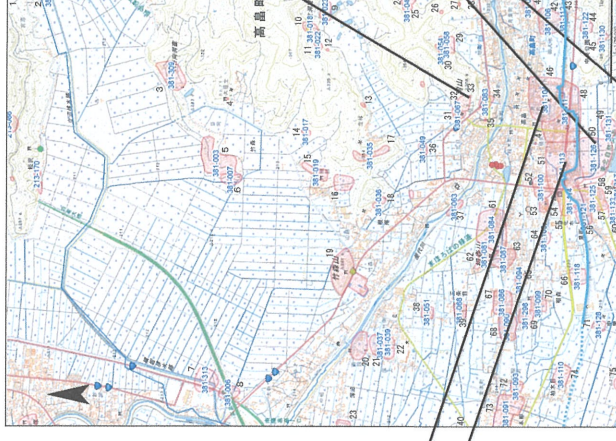
## 日向洞窟と周辺遺跡

石ヶ森遺跡



新太夫遺跡

5



## 日向洞窟と周辺遺跡

大在家遺跡



高畠町尻遺跡



羽山古墳



日照遺跡



高安窯跡

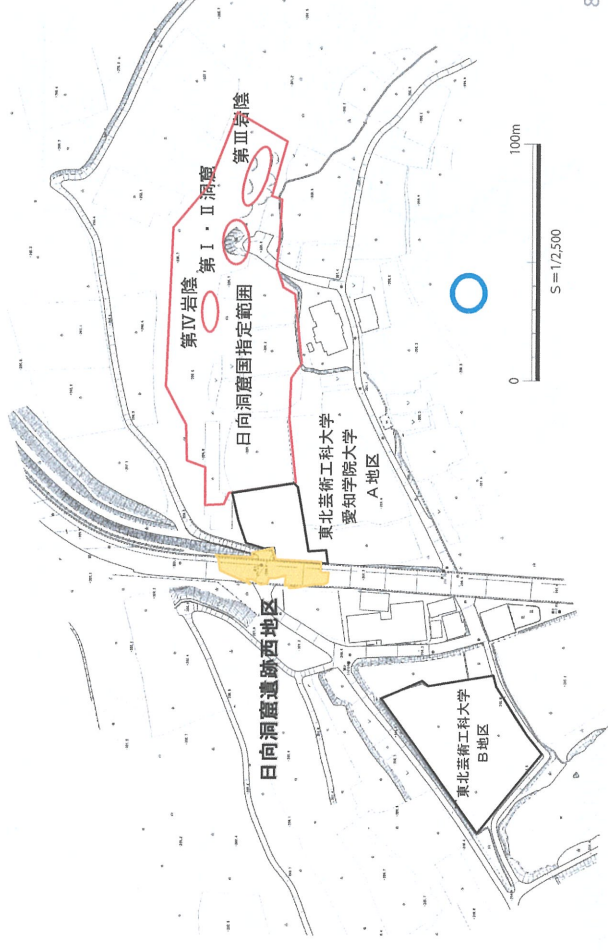


6

## 日向洞窟遺跡の立地

- ・日向洞窟遺跡は町中心部から北東に約3.5km、高畠町大字竹森字焼ヶ作に所在する。
- ・町の北西部から南陽市にかけて「大谷地」とよばれる泥炭性の大湿地帯が広がる。大谷地一帯は第三紀中新世頃の大規模な火山性の陥没によって生じた大きな窪地（カルデラ）であり、直径は約12kmにおよぶ。
- ・窪地はやがて湖沼化し、湿地性の植物が繁茂した。その遺体は未分解のまま埋没し、現在の**厚い泥炭層**が形成された。
- ・大谷地に向かって、半島状に突出する長峯山鞍部の南麓部に洞窟と岩陰が形成された。

7



8







## 日向洞窟遺跡西地区の調査に至る経緯

昭和30年(1955) 日向洞窟第1次調査

昭和32年(1957) 日向洞窟第2次調査

昭和33年(1958) 日向洞窟第3次調査

昭和45年(1970) 日向洞窟第4次調査

昭和60年(1985) 日向洞窟遺跡西地区試掘調査

日向洞窟遺跡西地区事前確認調査

昭和62年(1987) 日向洞窟遺跡西地区緊急発掘調査第1次調査

昭和63年(1988) 日向洞窟遺跡西地区緊急発掘調査第2次調査

平成元年(1989) 日向洞窟遺跡西地区緊急発掘調査第3次調査

平成18年(2006) 『日向洞窟遺跡西地区出土石器群の研究Ⅰ』

平成25年(2013) 西地区の東側A地区、西側B地区の調査

平成26年(2014) 西地区の東側A地区の調査

平成27年(2015) 『日向洞窟遺跡の発掘記録 第1次発掘調査報告書』

西地区の東側A地区の調査

日向洞窟遺跡範囲確認・備調査

日向洞窟発掘60周年記念講演会

山形大学・高島町教育委員会

高島町文化財保護会

山形大学他

山形大学・東京大学

高島町教育委員会

高島町教育委員会

高島町教育委員会

高島町教育委員会

高島町教育委員会

高島町教育委員会

東北学院大学(佐川・鈴木編 2006)

東北芸術工科大学

東北芸術工科大学

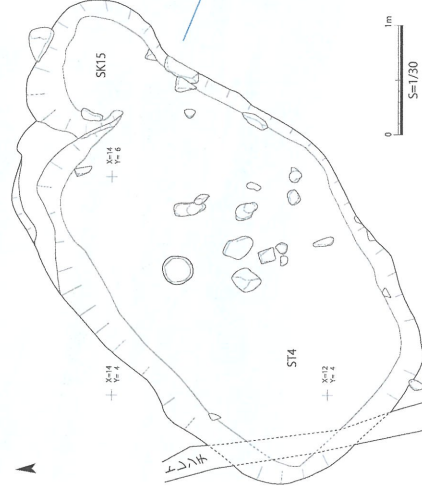
東北芸術工科大学(長井編 2015)

東北芸術工科大学

高島町教育委員会

高島町教育委員会

## 日向洞窟遺跡西地区の各年次調査区



## 日向洞窟遺跡西地区の調査に至る経緯

平成28年(2016) 日向洞窟遺跡範囲確認調査検討委員会設置

日向洞窟遺跡範囲確認調査1年目

西地区の東側A地区の調査

西地区の東側A地区の調査

『山形県高島町日向洞窟遺跡の発掘調査概要』

日向洞窟遺跡範囲確認調査2年目

西地区の東側A地区の調査

日向洞窟遺跡範囲確認調査3年目

『日向洞窟遺跡-縄文時代草創期から早期の調査-』

日向洞窟遺跡範囲確認調査4年目

西地区の東側A地区の調査

範囲確認調査検討委員会を改組し、日向洞窟遺跡調査検討委員会を設置

『日向洞窟遺跡範囲確認調査報告書』刊行

『日向洞窟遺跡西地区発掘調査報告書』刊行

高島町教育委員会

東北芸術工科大学

東北芸術工科大学

東北芸術工科大学(長井編 2017)

高島町教育委員会

東北芸術工科大学

高島町教育委員会

東北芸術工科大学(長井編 2019)

高島町教育委員会

愛知学院大学(長井 2020a, c・2023) ※

## 日向洞窟遺跡西地区の基本層序(H-7~H-27東壁)

・東西約10m、南北約40m、面積は約400 m<sup>2</sup>の調査区。

・出土遺物の特徴から、概ね第Ⅲ層は縄文中期、第Ⅲ層から第Ⅳ層は縄文前期、第Ⅳ層は縄文早期の遺物包含層である。

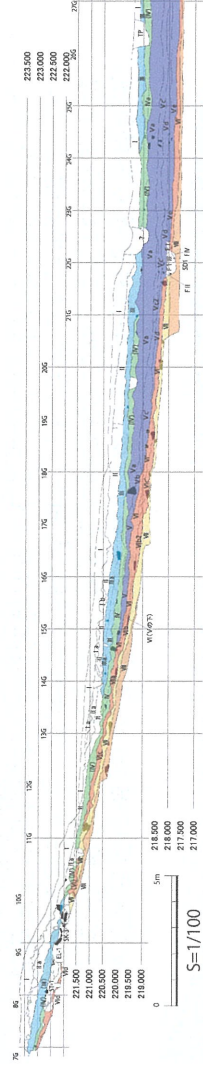
・ほぼ無遺物の層である第Ⅴ層の下位にあたる大別Ⅵ層において、**縄文草創期に比定される遺構や多量の遺物が出土した。**

・第Ⅴ層は黄褐色砂礫層。複雑に堆積したためか、粘土層と砂礫層の互層となり、局所的に砂層が入り込む。第Ⅰ洞窟前庭部の調査でも、縄文草創期の遺物包含層を覆う厚い無遺物層が確認されており、クロスラミナ状(佐川・鈴木 2008)やレンズ状(長井 2019)の砂層を一部伴うようである。

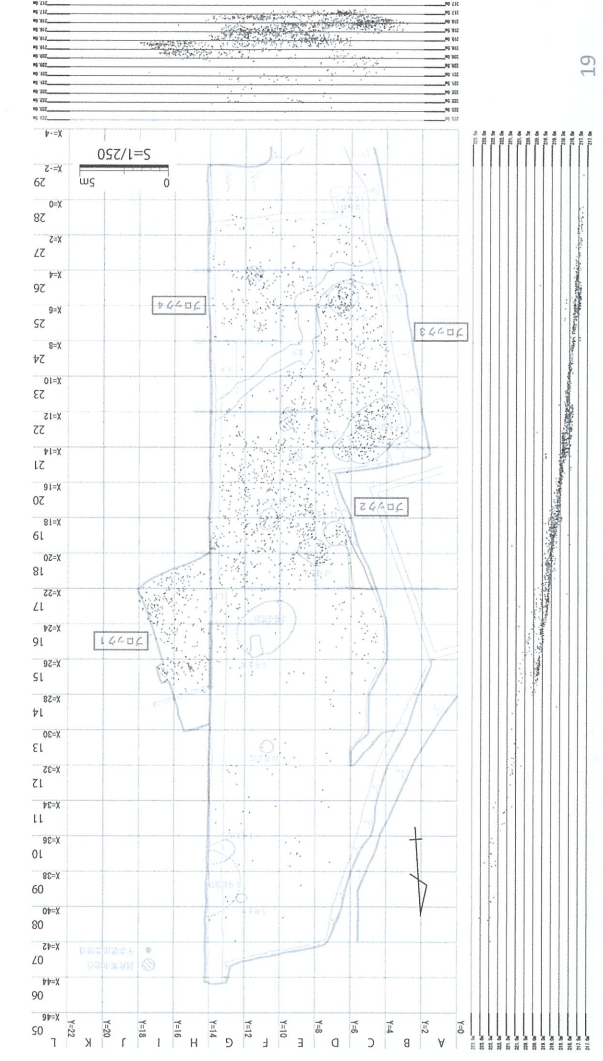


## 日向洞窟遺跡西地区の基本層序(H-7~H-27東壁)

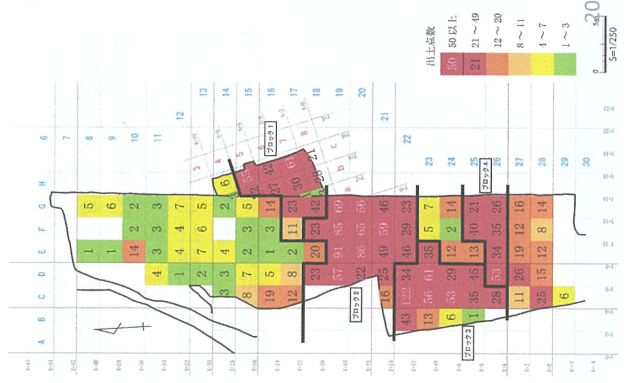
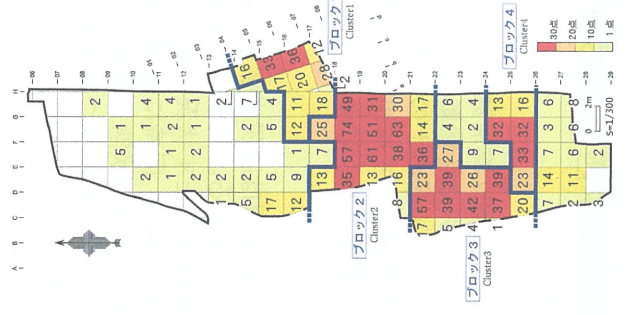
- ・第Ⅵ層は暗褐色を呈する遺物包含層。凝灰岩の礫が多く入りこむ。粘性がやや強くなり、炭化物も多く含まれる。
- ・最初にⅥ層として認識したため、のちに上層と下層で分ける際に上層をⅦ層、下層をⅥc層として当初の分層名が残ったようである。第Ⅴ層は遺物をほとんど含まないため、出土遺物の特徴から第Ⅴ層より下位は縄文草創期として時代的なまとまりがあると考えられた。したがって、Ⅶ層とⅥc層を合わせて**大別Ⅵ層**として扱う。



17



19

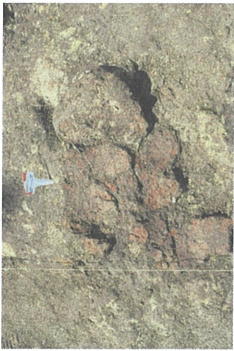


18



| 石 器                 | 点 数       | 重 量：g        | 石器水洗除外         | 点 数       | 重 量：g        |
|---------------------|-----------|--------------|----------------|-----------|--------------|
| RQ1 次               | 1,038     | 32,445.43    |                | 1,038     | 32,445.43    |
| RQ2 次               | 13,166    | 582,974.75   | RQ1 次          | 13,166    | 582,974.75   |
| RQ3 次               | 2,952     | 131,570.47   | RQ2 次          | 2,952     | 131,570.47   |
| RQ2 次 水洗選別 5mmTool  | 1,760     | 3,952.88     | 通常取上げ 1 次 Tool | 263       | 5,530.17     |
| RQ3 次 水洗選別 5mmTool  | 97        | 174.46       | 通常取上げ 2 次 Tool | 806       | 30,667.09    |
| RQ2 次 水洗選別 3mmTool  | 175       |              | 通常取上げ 3 次 Tool | 118       | 2,869.30     |
| RQ3 次 水洗選別 3mmTool  | 4         |              | 通常取上げ 1 次 剥片   | 8,426     | 19,010.28    |
| 水洗選別 2 次 3mm 剥片     | 1,586,113 | 43,389.35    | 通常取上げ 2 次 剥片   | 17,540    | 43,321.71    |
| 水洗選別 3 次 3mm 剥片     | 13,131    | 400.21       | 通常取上げ 3 次 剥片   | 8,826     | 15,303.51    |
| 水洗選別 2 次 5mm 剥片     | 302,961   | 153,906.53   | 合 計            | 53,135    | 863,692.71   |
| 水洗選別 3 次 5mm 剥片     | 33,719    | 12,175.81    | 全 体            | 1,991,095 | 1,077,691.95 |
| 通常取上げ 1 次 Tool      | 263       | 5,530.17     |                | 2,67%     | 80.14%       |
| 通常取上げ 2 次 Tool      | 806       | 30,667.09    | 土 器            | 点 数       | VI層          |
| 通常取上げ 3 次 Tool      | 118       | 2,869.30     | 通常取上げ 1 次 剥片   | 681       | 75           |
| 通常取上げ 2 次 剥片        | 8,426     | 19,010.28    | 通常取上げ 2 次 剥片   | 1,383     | 927          |
| 通常取上げ 1 次 剥片        | 17,540    | 43,321.71    | 通常取上げ 3 次 剥片   | 53        |              |
| 通常取上げ 2 次 剥片        | 8,826     | 15,303.51    | 合 計            | 394       | 255          |
| 通常取上げ 3 次 剥片        | 1,991,095 | 1,077,691.95 | 通常取上げ 1 次 剥片   | 2,511     | 1,257        |
| 合 計                 | 100%      | 100%         | 通常取上げ 2 次 剥片   | 130       |              |
| 石器 Tool のみ (鏝除く) 掲載 | 4,619     | 130,202.759  | 掲載             |           | 132          |
|                     | 0.23%     | 12.08%       | 全体の割合          | 5.18%     | 50.06%       |
|                     |           |              |                |           | 21 5.26%     |

・縄文土器は総点数2,511 点にのぼる。このうち130 点を掲載した。土器の多くが、特に大別VI層出土の土器については未だに土が除去されずに出土したまま、土塊の状態で保管されている。



・大別VI層は凝灰岩礫を含み、下層になるほど凝灰岩の崩壊土としての色が濃くなる。崩壊した状態にあっても非常に締まり、掘り下げるのにも支障をきたす状況であった。当時、土器が出土した際に付着する土を除去すると、同時に土器の器面も剥落するため、土塊のまま取り上げて、そのままの状態でも保管されている。非常に脆いことから採取可能な土器片は限られた数に留まる。大別VI層から取り上げることができた土器片は1,257 点であり、いずれも小片ではあるが全体の半分ほどを占める。

・今回報告書に掲載した遺物は4,905 点。このうち礫や剥片を除く器種同定された石器は4,619 点を数え、総出土点数の約0.23%、重量は130kg で約12.08%を占める。総点数の1%にも満たないことからわかる通り、水洗選別で得られた3mm の微細剥片などを含む総出土点数は1,991,095 点、総重量は1,077kg におよぶ。

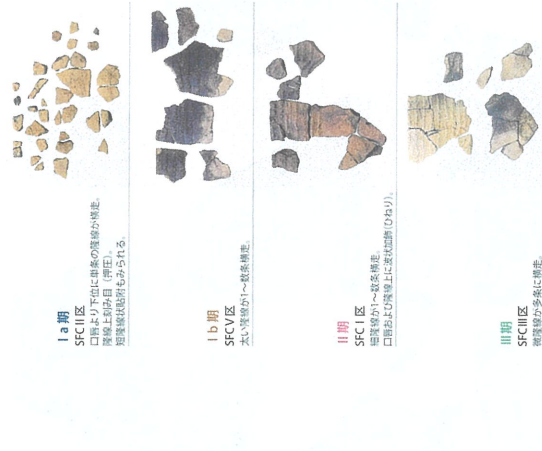
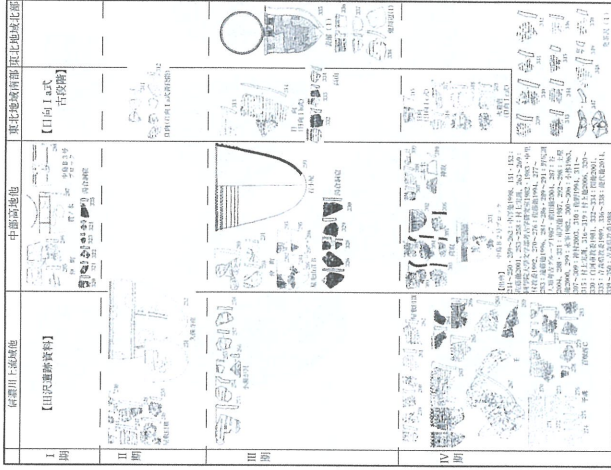
・点数の多さは水洗選別で得られた微細剥片の多量さ、重量は棒状礫の多さが影響している。水洗選別で得られた資料を抜くと53,135 点、864kg と微細剥片の多さがわかる。3 次調査の水洗選別5mm の抽出tool が少ない理由は積極的に遺物の取り上げを実施したためと考えられる。また、3 次調査の水洗選別3mm の点数が少なくない理由は大部分が手つかずの状態のためであり、2 次3 次調査の1mm の選別についてはいずれも未着手。

## 日向洞窟遺跡西地区の年代的位置づけ









村上 昇2024「縄文時代草創期前期縄文土器期の東北地域における地域性表現の検討と年代編年表へ向けての作業」その1「青森県考古学」31「青森県考古学会」614  
小林 隆一・工藤 雄一 2009「約1万5千年前！？」—1万5千年前にながらおこったのか—「国立歴史民俗博物館」36

## 日向洞窟遺跡西地区の年代的位置づけ

- ・ 文様を確認し得る縄文土器片は30点である。
- ・ 掲載分を含む大別Ⅵ層出土の縄文土器片1,257点のほとんどは無文であり、縄文草創期の土器胴部片で占められるだろう。
- ・ 文様を伴う土器片は微隆起線文で多く占められる。一方、大別Ⅵ層の下層では細隆起線文や粘土紐に刻みを施文するものも少量伴う。
- ・ 石器では有舌尖頭器が非常に少なく、石鏃が多量に出土することを含めて考えると、過渡的に隆起線文の古い段階を残しつつ、微隆起線文が主体となる小林編年のS1-2 期が日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層の時期と推測される。

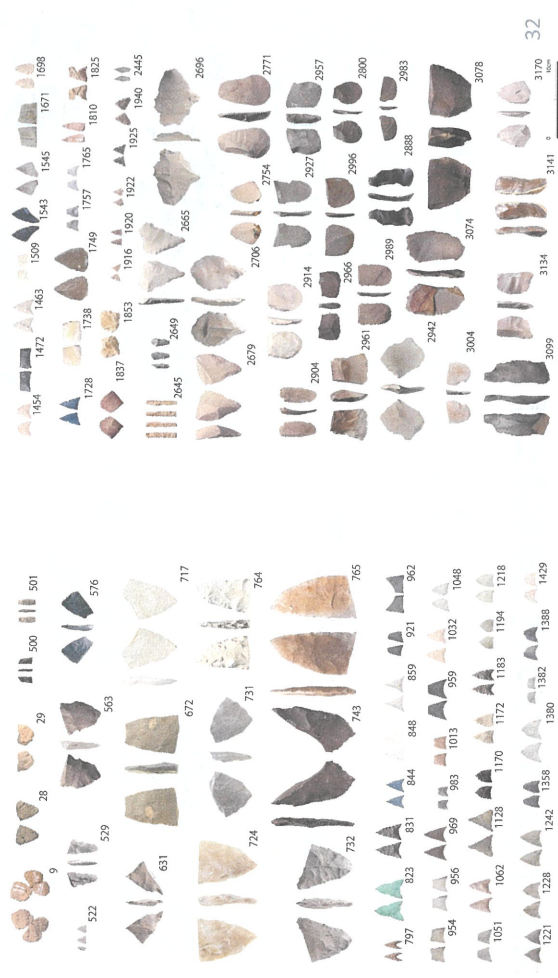
## 日向洞窟遺跡西地区の年代的位置づけ

| 佐藤 (2008)     |                   | 谷口 (2011)     |                                     |
|---------------|-------------------|---------------|-------------------------------------|
| 隆起線文土器の5段階編年表 |                   | 縄文時代草創期の3段階区分 |                                     |
| 区分            | 土器の特徴             | 区分            | 土器の特徴                               |
| 1期            | 隆起線文系以前           | 1期            | 隆起線文系以前                             |
| 第1段階          | 幅太い隆起線            | 2期            | 隆起線文系                               |
| 第2段階          | 隆起線文+ハの字爪形文併用     | 3期            | 隆起線文系以後<br>(円孔文・爪形文・押庄<br>縄文・多縄文など) |
| 第3段階          | 貼付隆起線文による口縁部密接化   |               |                                     |
| 第4段階          | 微隆起線文の塊状施文        |               |                                     |
| 第5段階          | 微隆起線文による器面全面への多条化 |               |                                     |

| 小林 (2017)            |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 縄文時代草創期の3段階 (5亜別) 区分 |                       |
| 区分                   | 土器の特徴                 |
| S0期                  | 無文                    |
| S1期                  | 太い隆起線～細隆起線            |
| S1-2期                | 微隆起線・隆起線・円孔文・爪形文・無文など |
| S2-1期                | 爪形文・押庄                |
| S2-2期                | 縄文・無文                 |
| S2-3期                | 多縄文・家裏                |
| S2-4期                | 縄文・無文                 |

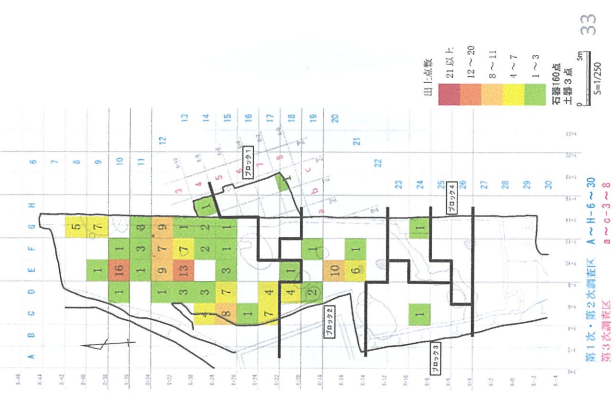
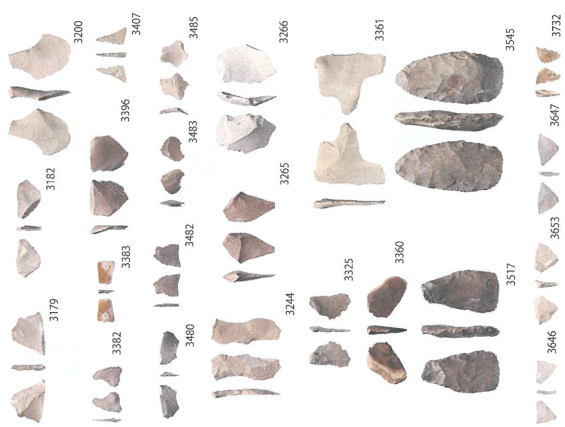
工藤 隆一・米田 隆一 2020「1万人前！？」—1万5千年前にながらおこったのか—「国立歴史民俗博物館」36

## ちなみに…Ⅵ層下部の遺物について





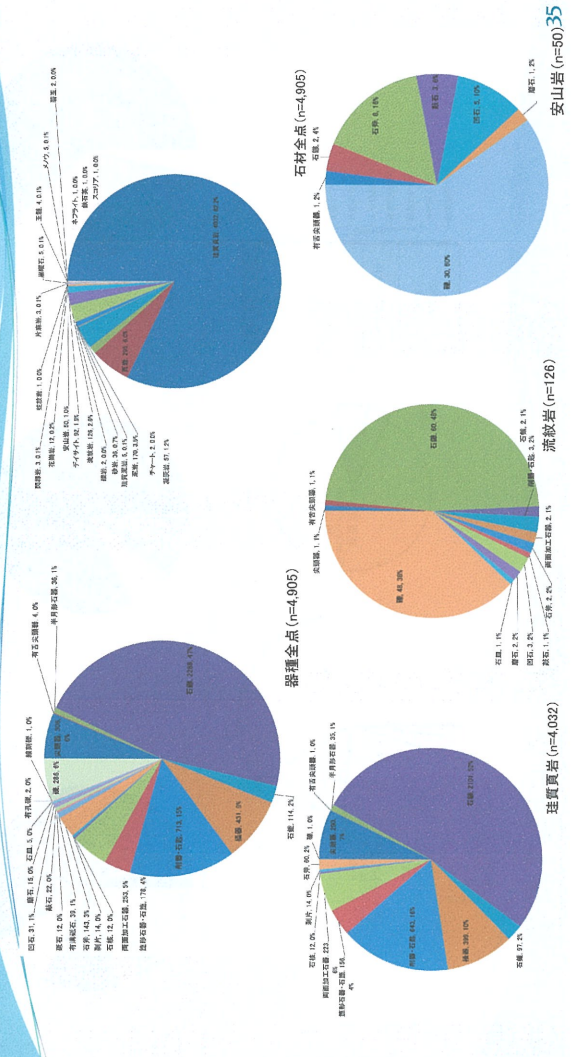
# ちなみに… VI層下部の遺物について



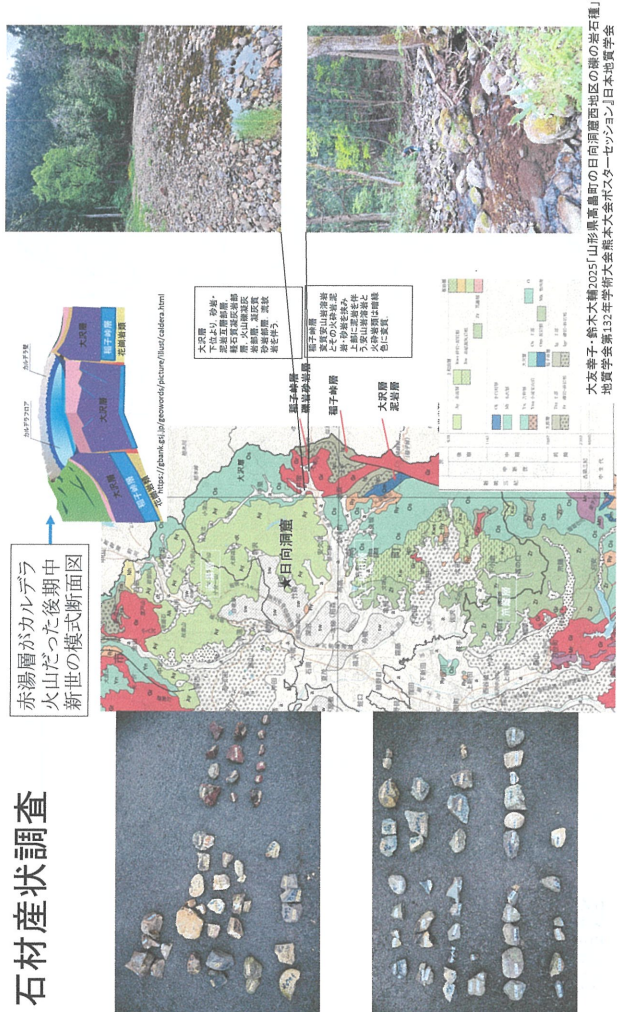
第1次・第2次調査区 A～H・6～30  
第3次調査区 8～3～8  
33  
5m/250  
出土数  
21以上  
12～20  
8～11  
4～7  
1～3  
石器の風土層3風

# 日向洞窟遺跡西地区の 石器群の構造

## 日向洞窟遺跡西地区の石器器種組成



## 石材産状調査





## 分類頭器



二類：小形幅広  
身と舌部の境界明瞭

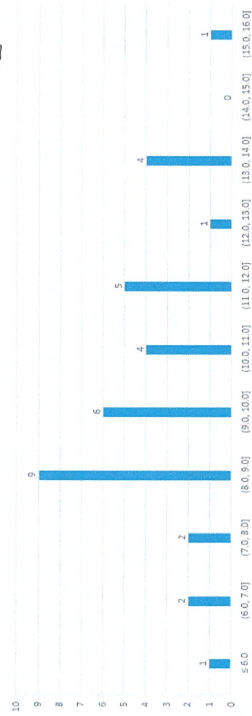
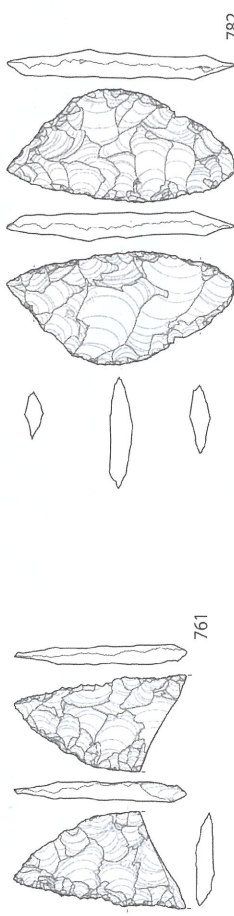




# 半月形石器分類

I 類：細身（幅が長さの 1/3 未満）

II 類：幅広（幅が長さの 1/3 以上）



41

# 石鏃分類

I a 類：長脚側縁直線的（脚部の占める割合 15%以上 33%未満）

I b 類：長脚側縁内湾的（内側に括れる）



II a 類：凹基側縁直線的（脚部の占める割合 15%未満）

II b 類：凹基側縁内湾的



III a 類：平基側縁直線的

III b 類：平基側縁内湾的



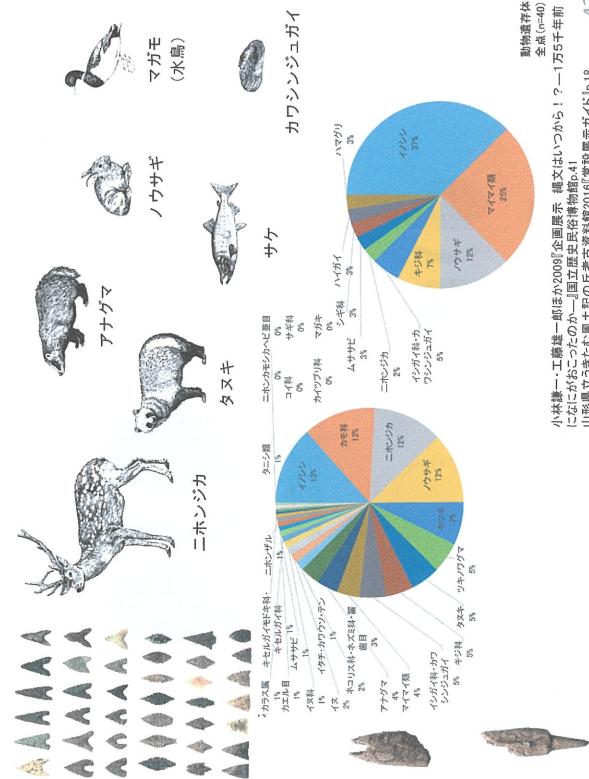
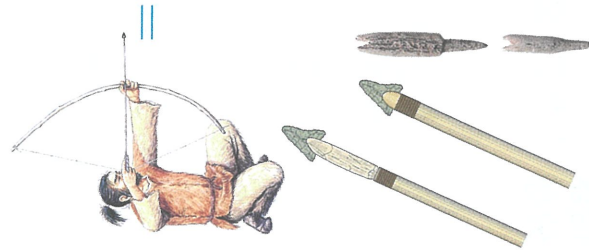
IV a 類：尖基側縁直線的 IV b 類：尖基側縁内湾的 V a 類：有茎側縁直線的 V b 類：有茎側縁内湾的



VI 類：厚みがあり大きいもの、VII a 類：基部欠損 VII b 類：先端部・基部欠損 VII c 類：先端部欠損加工が十分ではないもの



42

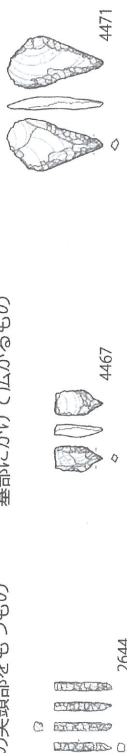


43

# 石鏃分類

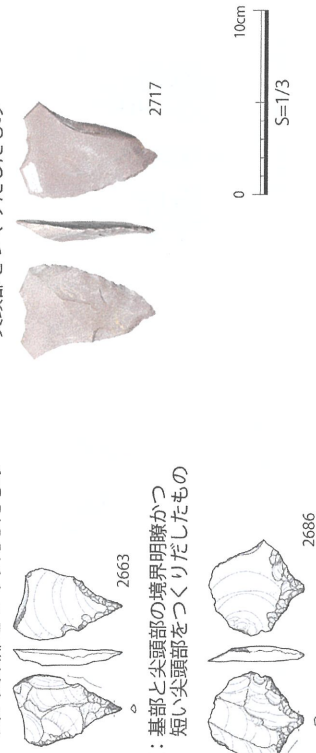
I 類：棒状を呈する断面三角・四角形の尖頭部をもつもの

II 類：小形で尖頭部をもち、基部にかけて広がるもの



IV a 類：基部と尖頭部の境界明瞭かつ長い尖頭部をつくりだしたもの

V 類：素材自体が細長く、先端を加工して尖頭部をつくりだしたもの



IV b 類：基部と尖頭部の境界明瞭かつ短い尖頭部をつくりだしたもの

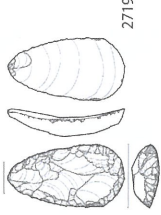


44



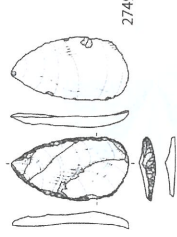
# 搔器

I a 類：楕形、基部がすばまりもの、槌状剥離



2719

I b 類：楕形、基部がすばまりもの、通常剥離



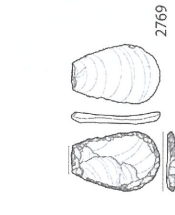
2749

I c 類：楕形、基部がすばまりもの、微細剥離



2763

II a 類：楕形、基部のすばまりが弱いもの、槌状剥離



2769

II b 類：楕形、基部のすばまりが弱いもの、通常剥離



2809

II c 類：楕形、基部のすばまりが弱いもの、微細剥離



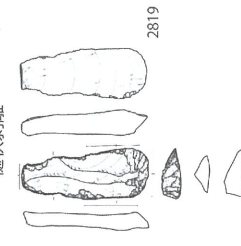
2814



45

# 搔器

III a 類：短冊形で細長いもの、槌状剥離



2819

III b 類：短冊形で細長いもの、通常剥離



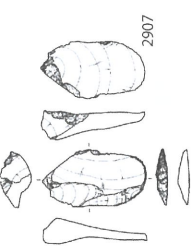
2882

III c 類：短冊形で細長いもの、微細剥離



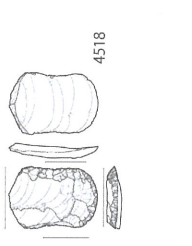
2892

IV a 類：短冊形で小さいもの、槌状剥離



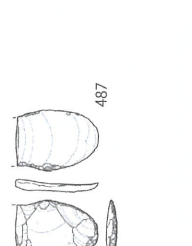
2907

IV b 類：短冊形で小さいもの、通常剥離



4518

IV c 類：短冊形で小さいもの、微細剥離

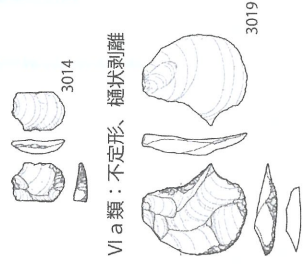


487

46

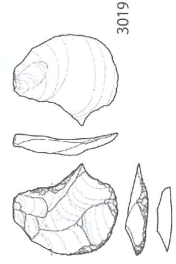
# 搔器

V a 類：円形（縦横比率ほぼ同率）、槌状剥離



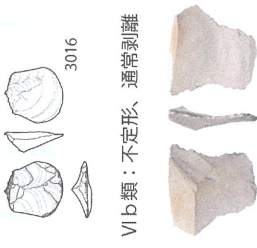
3014

VI a 類：不定形、槌状剥離



3019

V b 類：円形（縦横比率ほぼ同率）、通常剥離



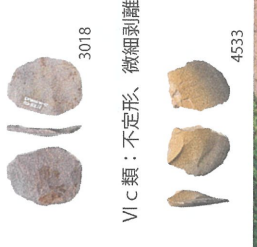
3016

VI b 類：不定形、通常剥離



3023

V c 類：円形（縦横比率ほぼ同率）、微細剥離

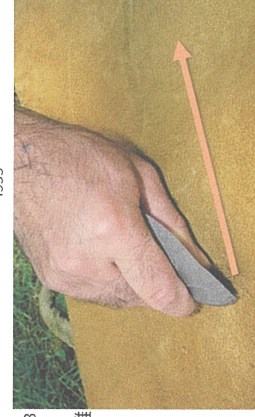


3018

VI c 類：不定形、微細剥離



4533



VII b 類：刃部のみ、通常剥離



3041

VII a 類：刃部のみ、槌状剥離



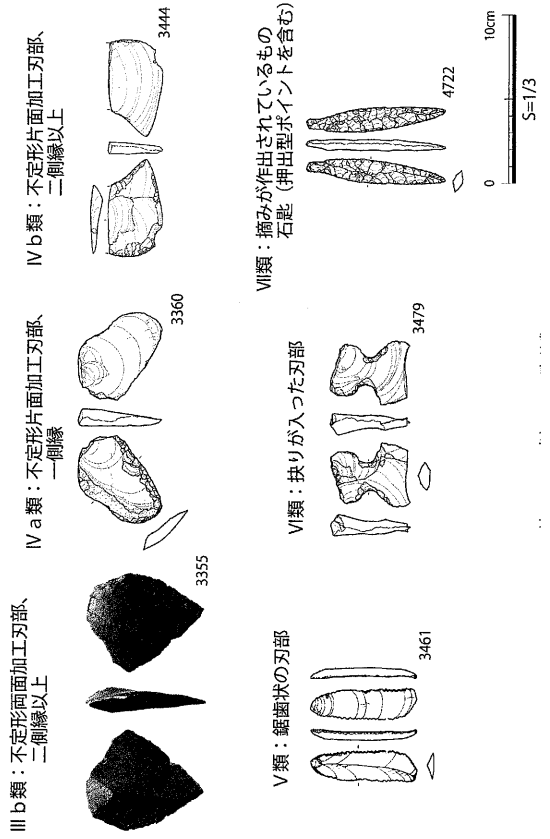
3025

48

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館2016「常設展示ガイド」p.9 47

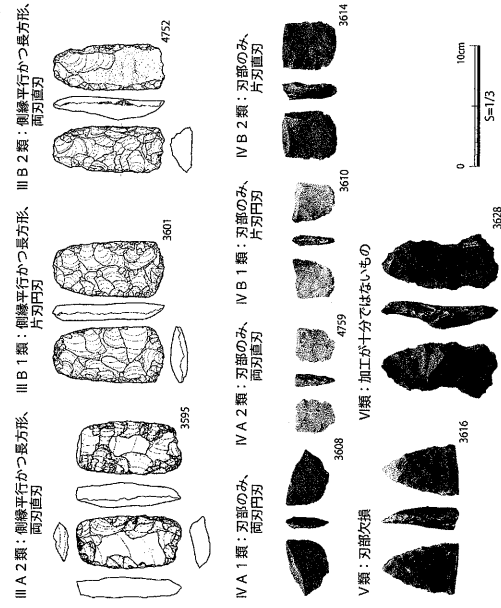


## 削器 分類



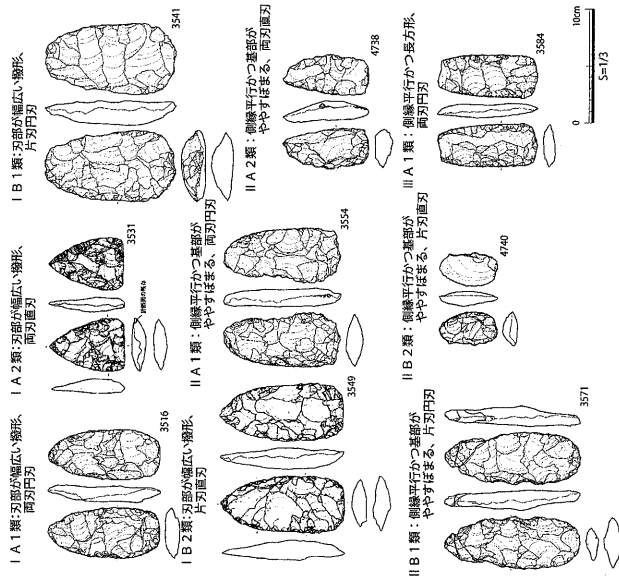
49

## 筵形石器 分類



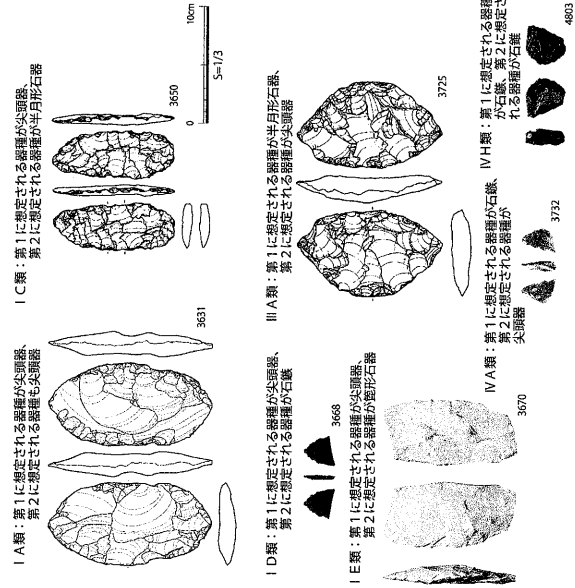
51

## 筵形石器 分類



50

## 両面加工石器 分類

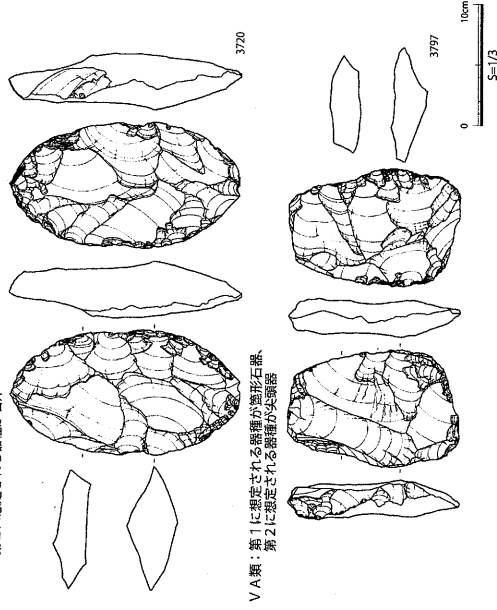


52



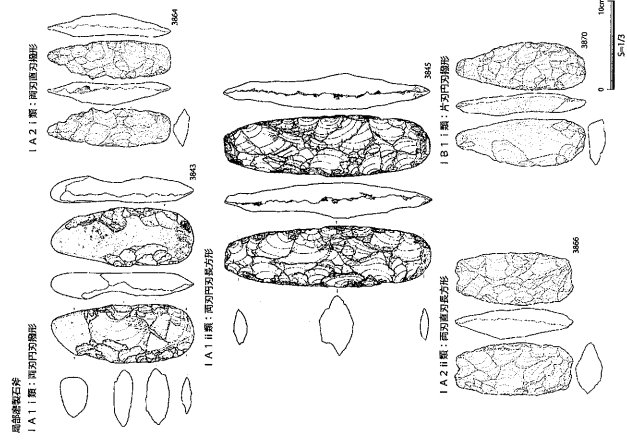
# 両面加工石器

I F 類：第 1 に想定される器種が尖頭器、  
第 2 に想定される器種が石斧



V A 類：第 1 に想定される器種が鋸形石斧、  
第 2 に想定される器種が尖頭器

# 石斧分類



# 両面加工石器

分類

V D 類：第 1 に想定される器種が鋸形石斧、  
第 2 に想定される器種が石鏃



3776

V F 類：第 1 に想定される器種が鋸形石斧、  
第 2 に想定される器種が石斧



3792

V I E 類：第 1 に想定される器種が石斧、  
第 2 に想定される器種が鋸形石斧



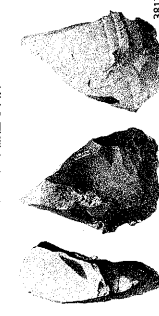
3814

V E 類：第 1 に想定される器種が鋸形石斧、  
第 2 に想定される器種も鋸形石斧

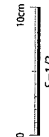


3784

V I F 類：第 1 に想定される器種が石斧、  
第 2 に想定される器種も石斧

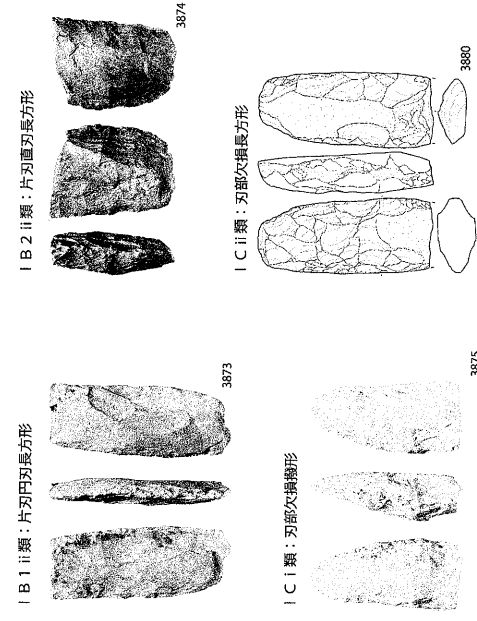


3817



0 10cm S=1/3

# 石斧分類



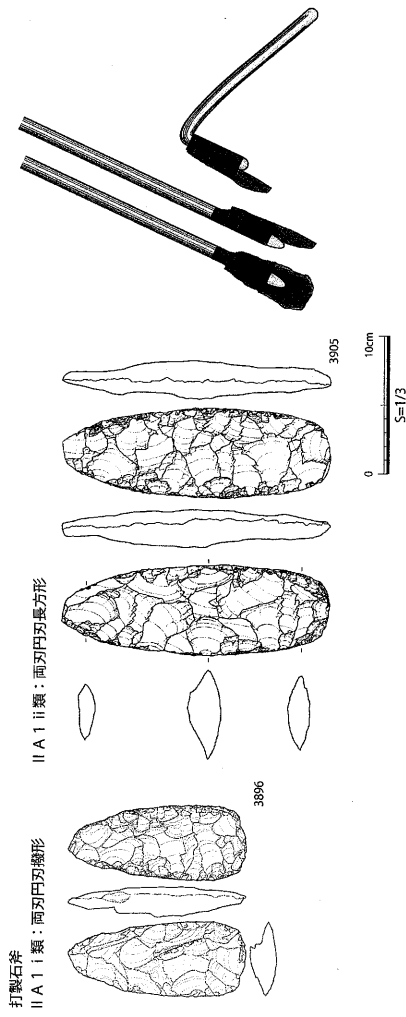
3873

3874

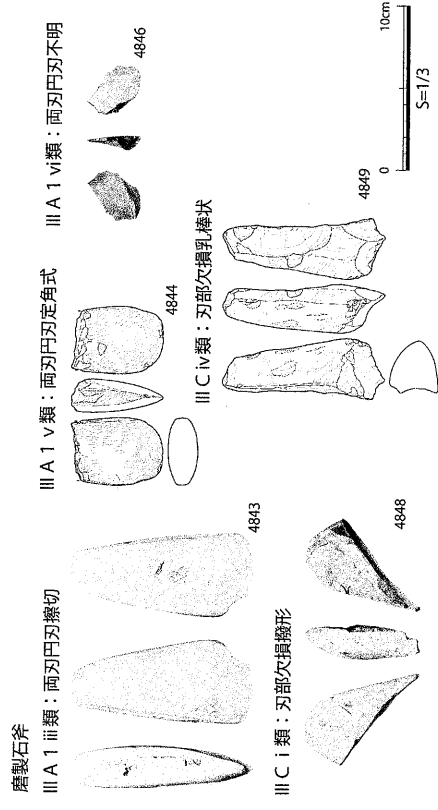
3880



## 石斧分類

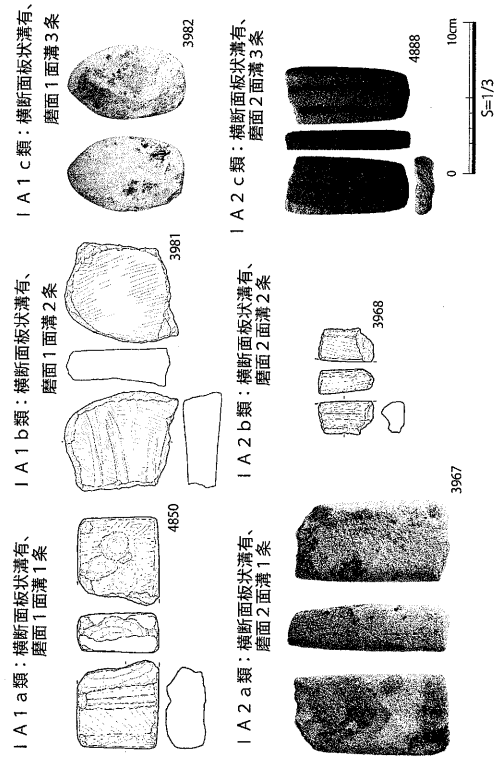


## 石斧分類

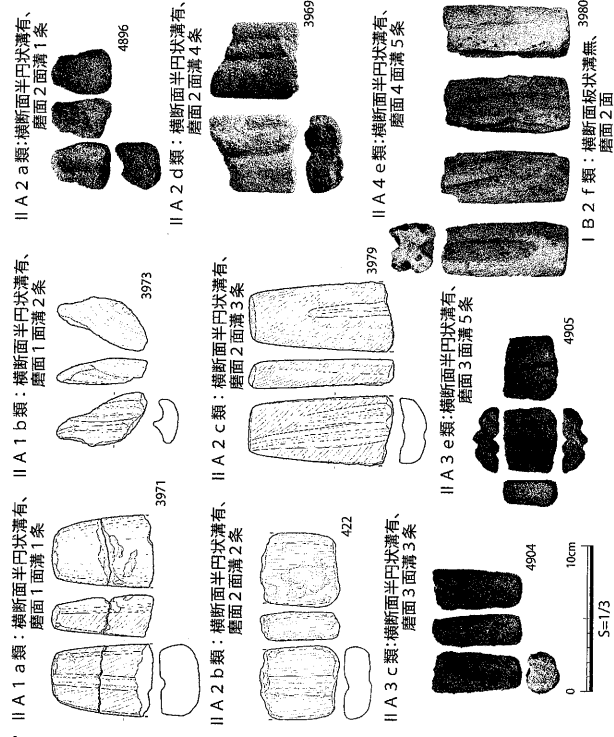


川合剛2014『惑しる縄文時代ガイドブック』『惑しる縄文時代』展実行委員会p.22

## 有溝砥石 分類

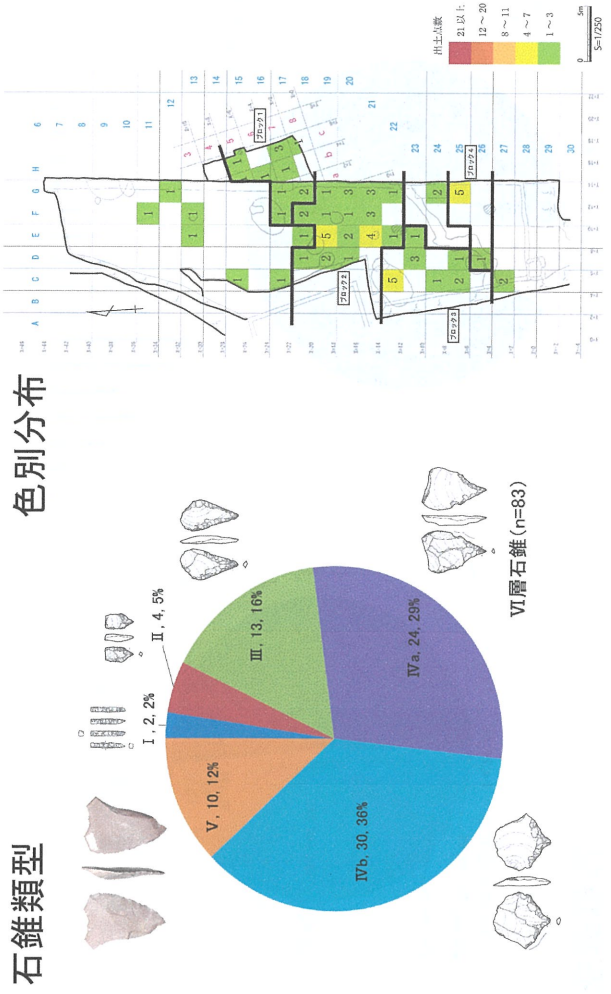


## 有溝砥石 分類



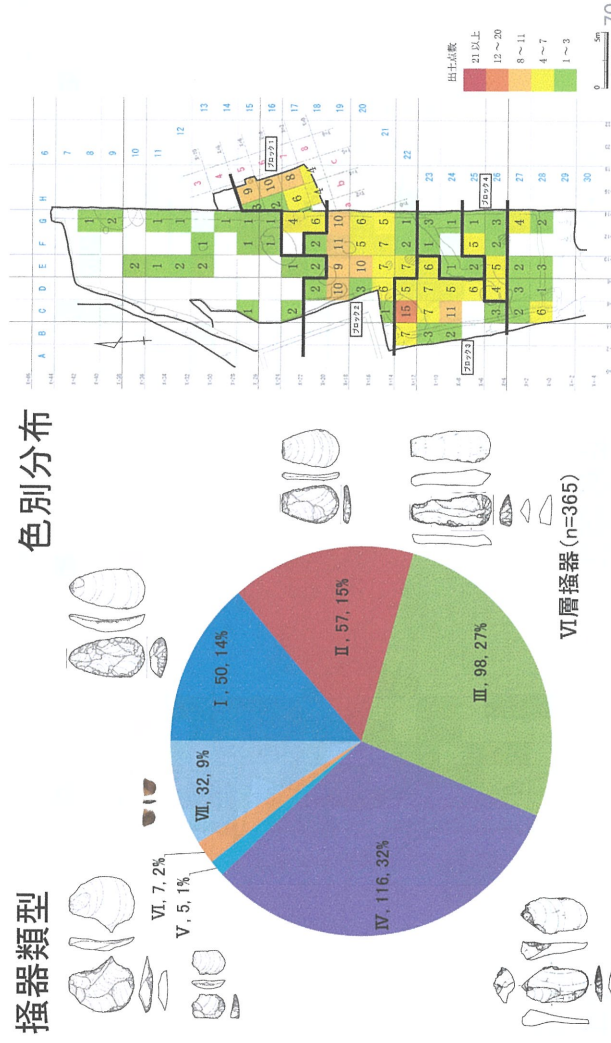
## 石錐類型

## 色別分布



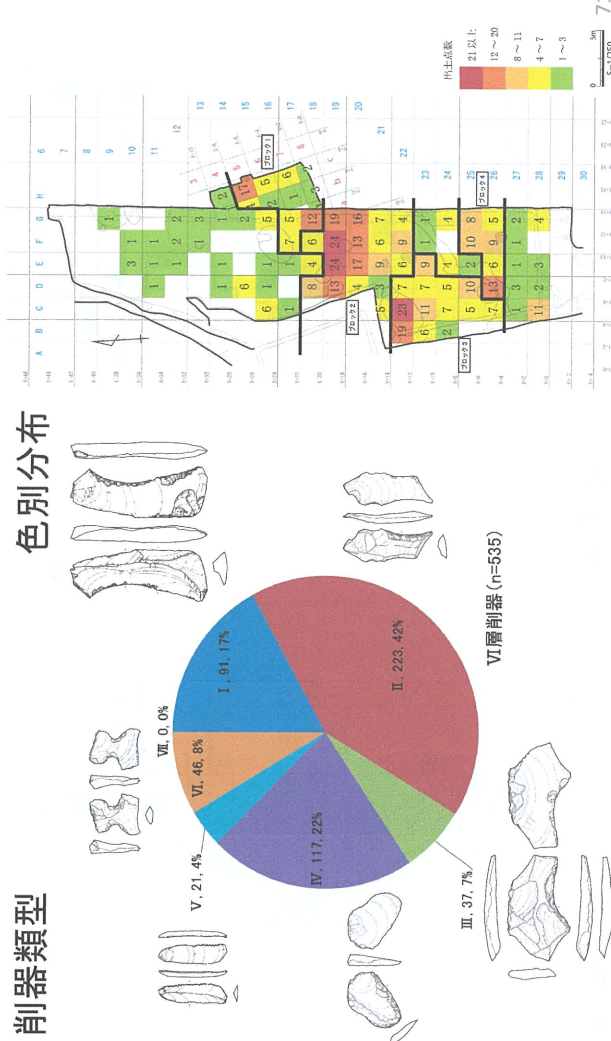
69

## 色別分布



## 削器類型

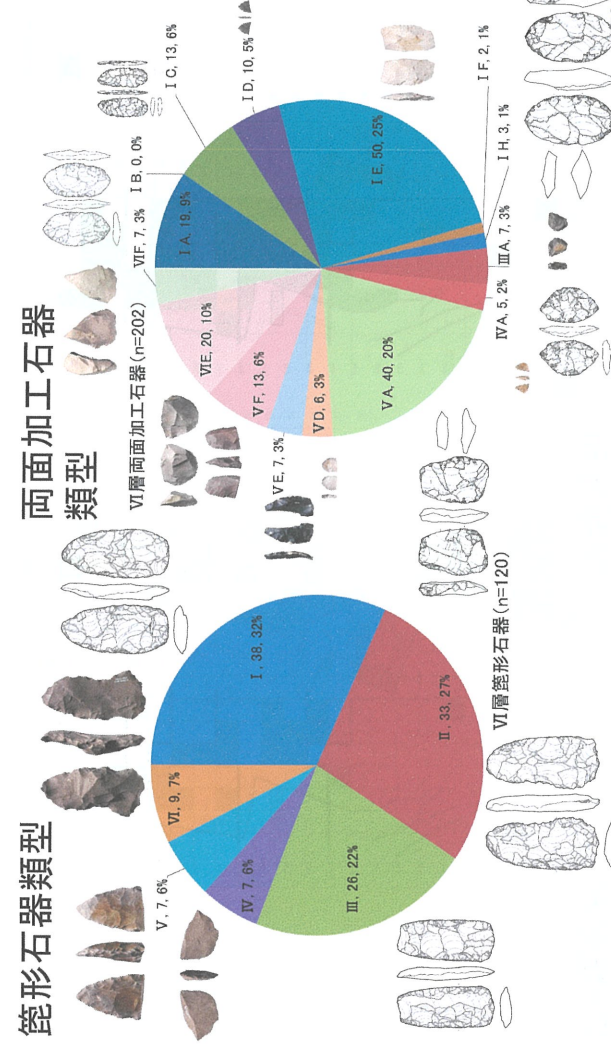
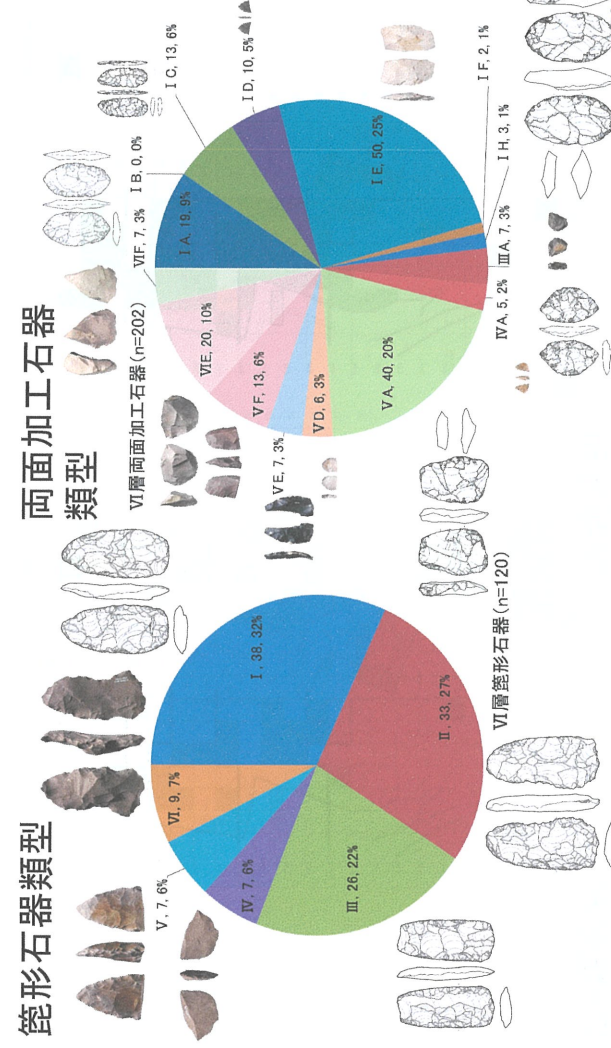
## 色別分布



71

## 筐形石器類型

## 両面加工石器

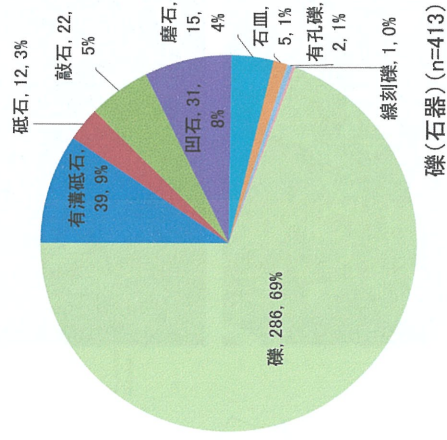




## 石斧類型



## 礫(石器)類型



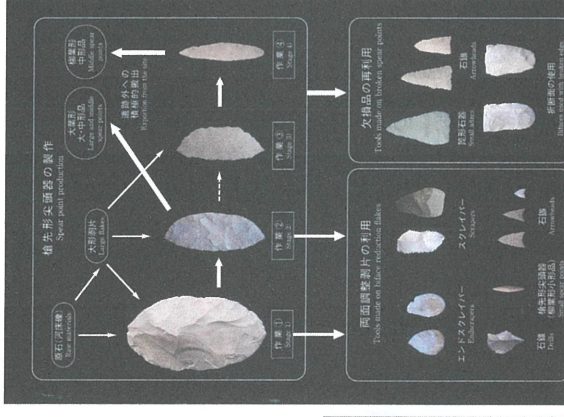
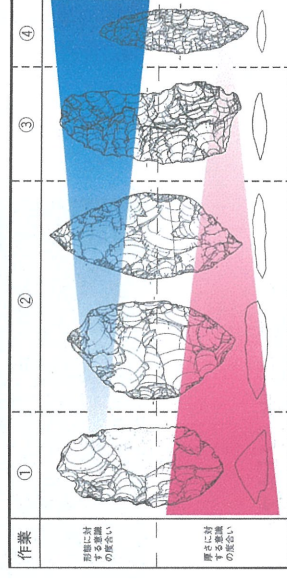
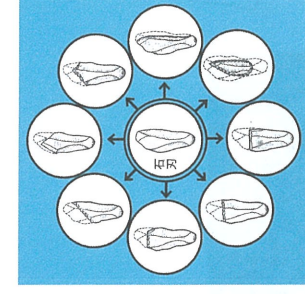
石斧 (n=123)

73

## 日向洞窟遺跡西地区の石器群の構造

- ・全体の9割弱を珪質頁岩が占めている。珪質頁岩を基本的に利用しながら、限定された器種に特定の石材を志向する傾向が少なからず見受けられた。
- ・用途の側面から見ると、尖頭器や石鏃などの狩猟具が56.4%、搔器、篋形石器、打製石斧といった加工工具が43.6%を占める。
- ・技術的な側面から見ると、尖頭器や篋形石器、打製石斧など主に原石か大形剥片を素材として両面を加工する石器が27.0%を占め、石鏃や搔器などの剥片素材の小形石器は73.0%を占める。
- ・石器の素材生産に関わる石核は9点と極端に少ない。
- ・いずれの遺構も石鏃が出土しており、SK11ではやや比率が低いものの概ね3割以上を占めること、搔器と削器で2割前後を占めること、半截棒状礫が出土することは共通する。
- ・一方、尖頭器や有溝砥石・砥石の出土はST4・SK11・SK12でみられるなど器種ごとに異なる傾向がみられた。

75



山形県立うまなま高等学校附属2016年度歴史学習教材「8  
佐川正樹・佐本健雄2006日向洞窟遺跡西地区出土石器群の研究1 縄文時代前期  
期の増先形尖頭器を中心とする石器製作址の検討」東北学院大学ほか、74.95 74

・尖頭器はⅣ類が半分以上を占める。また、完形は1割程度でほとんどが欠損している。

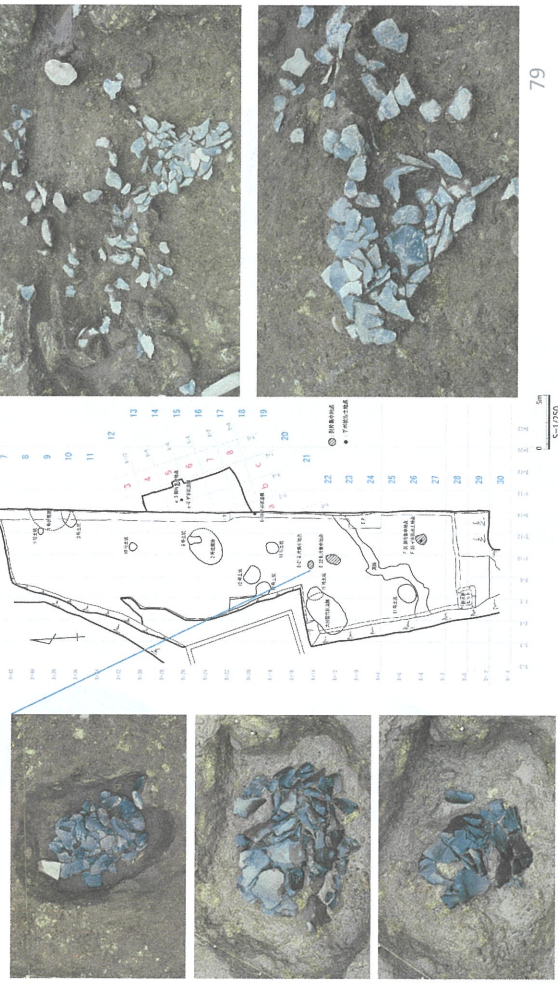
- ・有舌尖頭器は4点のみの出土だが全て完形で使われる石材も異なる。
- ・半月形石器は厚さ8mm以上が8割ほどで、尖頭器のⅢ・Ⅳ類相当、作業①・②に該当するものが多く占める。
- ・石鏃はⅡ類の凹基鏃が多く、強い規格性がみられた。また、全体のうち1割前後は加工が十分ではない未成品と思われ、2割弱が完形であまり摩耗は観察できなかった。被熱痕が伴う個体も多くみられた。
- ・石鏃は鏃部が摩耗しているものも一定数確認できた。また、断面三角形鏃が2点出土した。
- ・搔器も規格性が強いといえ、4割ほどが完形であったが、刃部が磨耗したものが散見された。
- ・削器は搔器より若干厚く、規格性は弱い。欠損するものは搔器よりも多かった。
- ・篋形石器は刃部角が55°に集中する両面加工石器で搔器と作り方が異なる。石斧よりも小形であり、様々な形態がみられた。

76

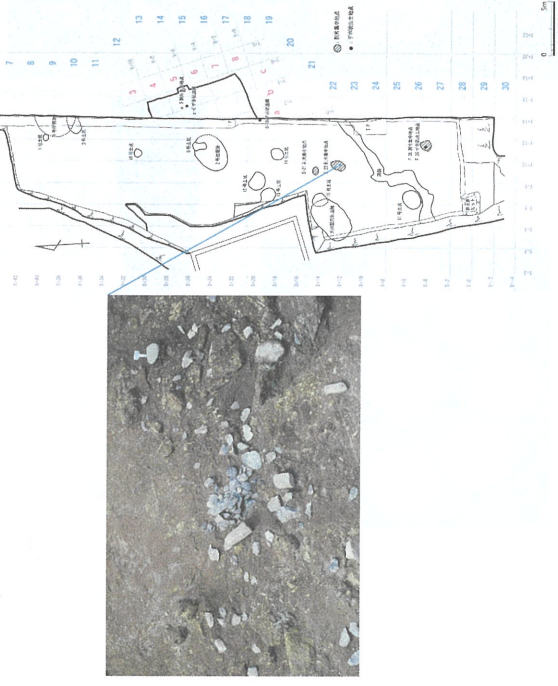


- ・石斧は近隣の石材が使われる一方、形態は様々でデボ状出土地点などの器種と出土や分布が異なる。
- ・有溝砥石をはじめとした礫石器も石材や形態が多様であった。
- ・東北学院報告では、尖頭器の製作に①粗く大きな剥離、②面的な平坦剥離、③幅10mm程度の押圧剥離、④幅2～3mm程度の押圧剥離の4段階の作業工程を想定する。厚いものが多いが多くを占めるⅢ・Ⅳ類の多くは作業①・②に該当するだろう。厚さ9mm以上は厚みを減じきれていないものが散見される。また、石核がほとんど出土しておらず原礫面を有する剥片も少ないことから、大形ブランクの形で搬入されたこと、未成品と欠損品で占めることから製品は積極的に搬出されたこと、欠損品は他の器種へ作り替えるなど再利用されたと捉えられた（佐川・鈴木編2006）。
- ・隆起線文土器段階以降、こうした尖頭器や両面調整技術に伴う大形ポイントフレイク製作を技術基盤とし、それに伴う石鋸の大量生産（大場2006）や副次的な石斧の小型化・薄身化（佐川・鈴木2008）の可能性が日向洞窟遺跡西地区を中心に述べられており、本報告はこれらの見解を追認・補強するものである。

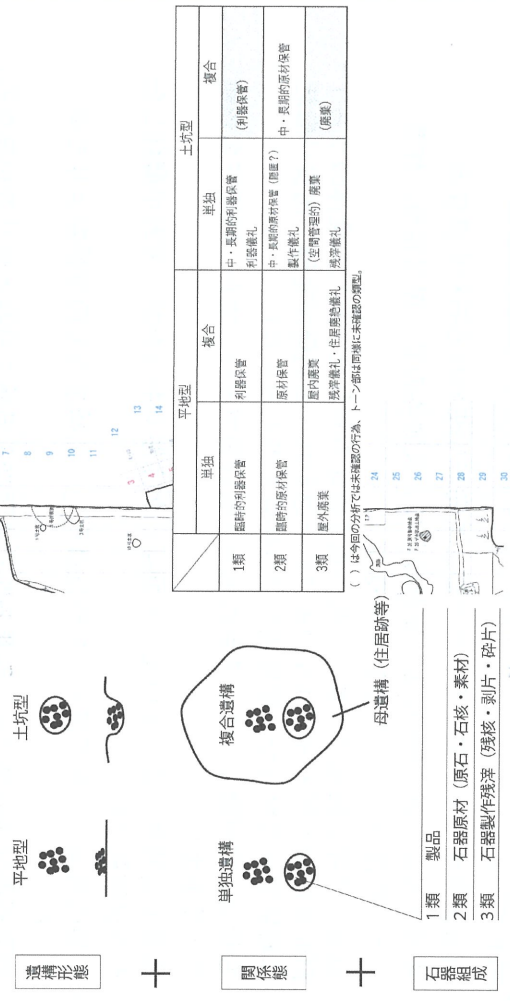
### E-21剥片集中地点



### E-22剥片集中地点



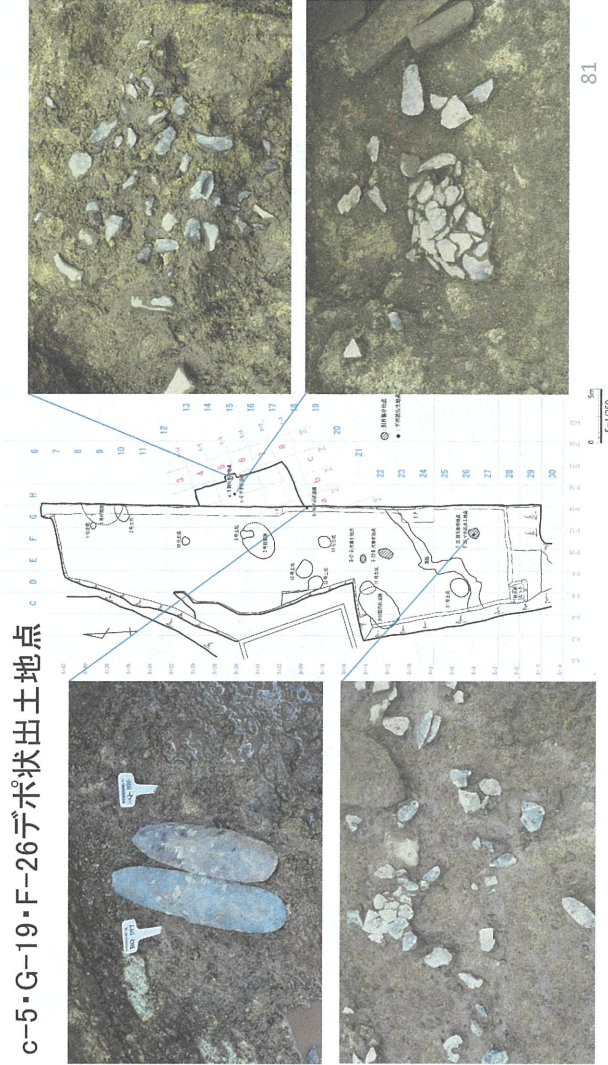
### 余談ですが...



吉川耕太郎2020「なぜ石器は集積されたのか―秋田県の高森遺跡集積理解のたのめの一試論―」『秋田県立博物館文化財センター研究紀要』36:58

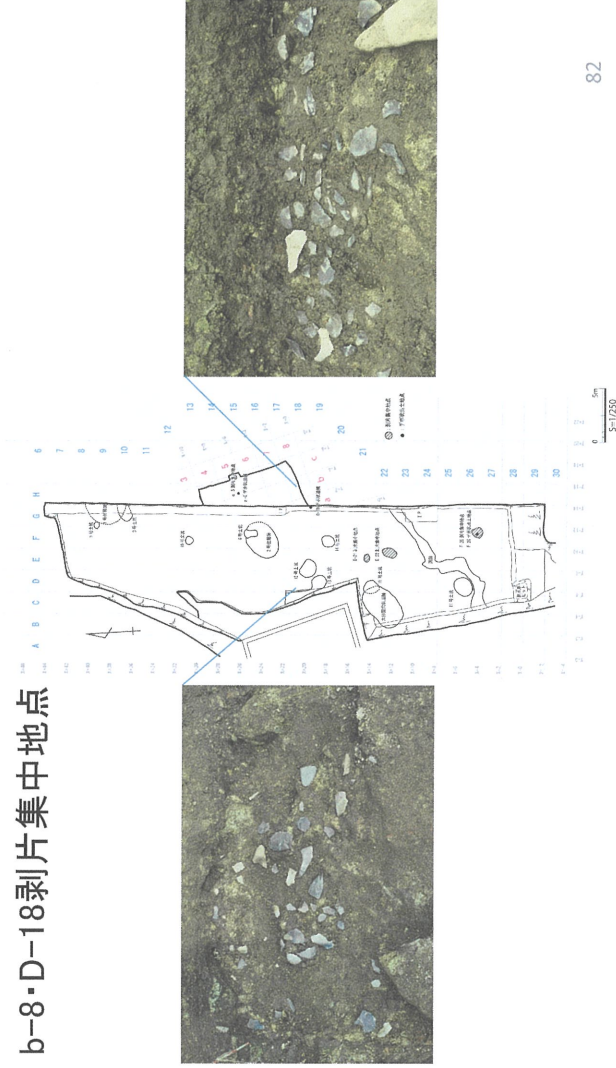


c-5・G-19・F-26デボ状出土地点



81

b-8・D-18剥片集中地点



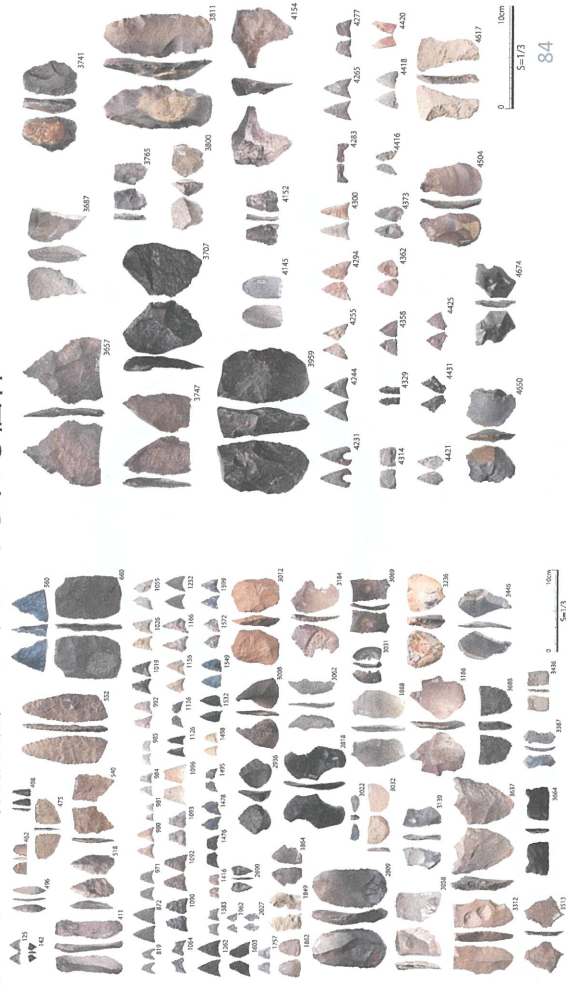
82

# 日向洞窟遺跡西地区の石器集積の類型

|     | 平地型                                        |                        | 土坑型                                    |                  |
|-----|--------------------------------------------|------------------------|----------------------------------------|------------------|
|     | 単独                                         | 複合                     | 単独                                     | 複合               |
| 1 類 | c-5デボ状<br>【臨時的利器保管】                        | (c-5剥片集中デボ状)<br>【利器保管】 | G-19デボ状<br>【中長期的利器保管】<br>【利器様礼】        | 複合<br>【利器保管】     |
| 2 類 | E-22剥片集中<br>G-5剥片集中<br>G-5デボ状<br>【臨時的現在保管】 | F-26剥片集中デボ状<br>【原材保管】  | E-21剥片集中<br>【中長期的原材保管 (隠匿?)】<br>【製作様礼】 | 複合<br>【中長期的原材保管】 |
| 3 類 | E-22剥片集中<br>b-8剥片集中<br>【屋外廃棄】              | 【屋外廃棄】<br>【残滓・住居廃絶様礼】  | D-18剥片集中<br>【 (空間管理的) 廃棄】<br>【残滓様礼】    | 複合<br>【廃棄】       |

83

余談ですが…被熱痕ハジケがみられる個体



84



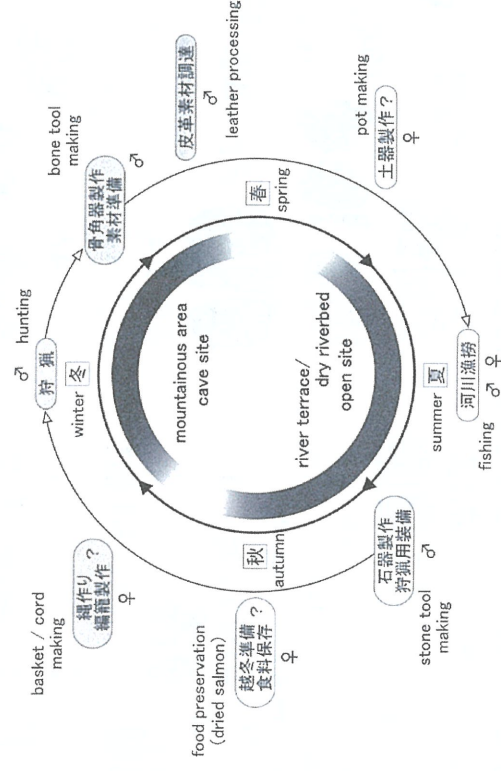
被熱  
器種のみ



被熱  
剥片含む



旧石器-縄文移行期の季節的行動と遺跡形成  
【信濃川流域モデル】



谷口康浩2020「旧石器-縄文移行期の生態的位相と遺跡形成」『香成秀爾編  
『上原岩陰と縄文革新』季刊考古学別冊132蓬山閣、139



ご清聴ありがとうございました